



2017年度  
漁の活力再生プラン  
優良事例表彰  
受賞事例集



# 浜の活力再生プラン – 浜プラン –

## 浜プランとは

「浜の活力再生プラン」(通称「浜プラン」)は、2014年に始まった、水産・漁業の地域活性化に向けた改革の取組です。地域によって状況が様々に異なる水産・漁業を振興させるため、浜ごとに取組みを実践し、地域に活力を与えることが目指されています。各地域が抱える課題に対し、漁業者と市町村がタッグを組んで、自ら考えた解決策を実践することに浜プランの本質があります。

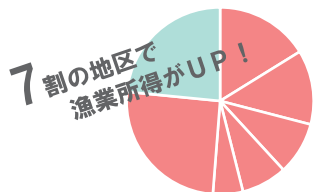
地域経済を支える沿岸域を活性化させるためには、水産業の振興が課題

水産業は、各地域の浜ごとで実態が異なる

浜独自の改革・振興策が必要！

## 浜プランの目標

その大目標は、「漁業所得の10%アップ」。収入を向上させる取組、コストを削減する取組など、多種多様な具体的なプランが実践されており、2018年2月26日現在、北海道から沖縄まで全国で657の浜プランが策定されています。



※2年目時点の目標達成率の構成割合。赤が10%UPの目標を達成した地区。

## 浜プラン

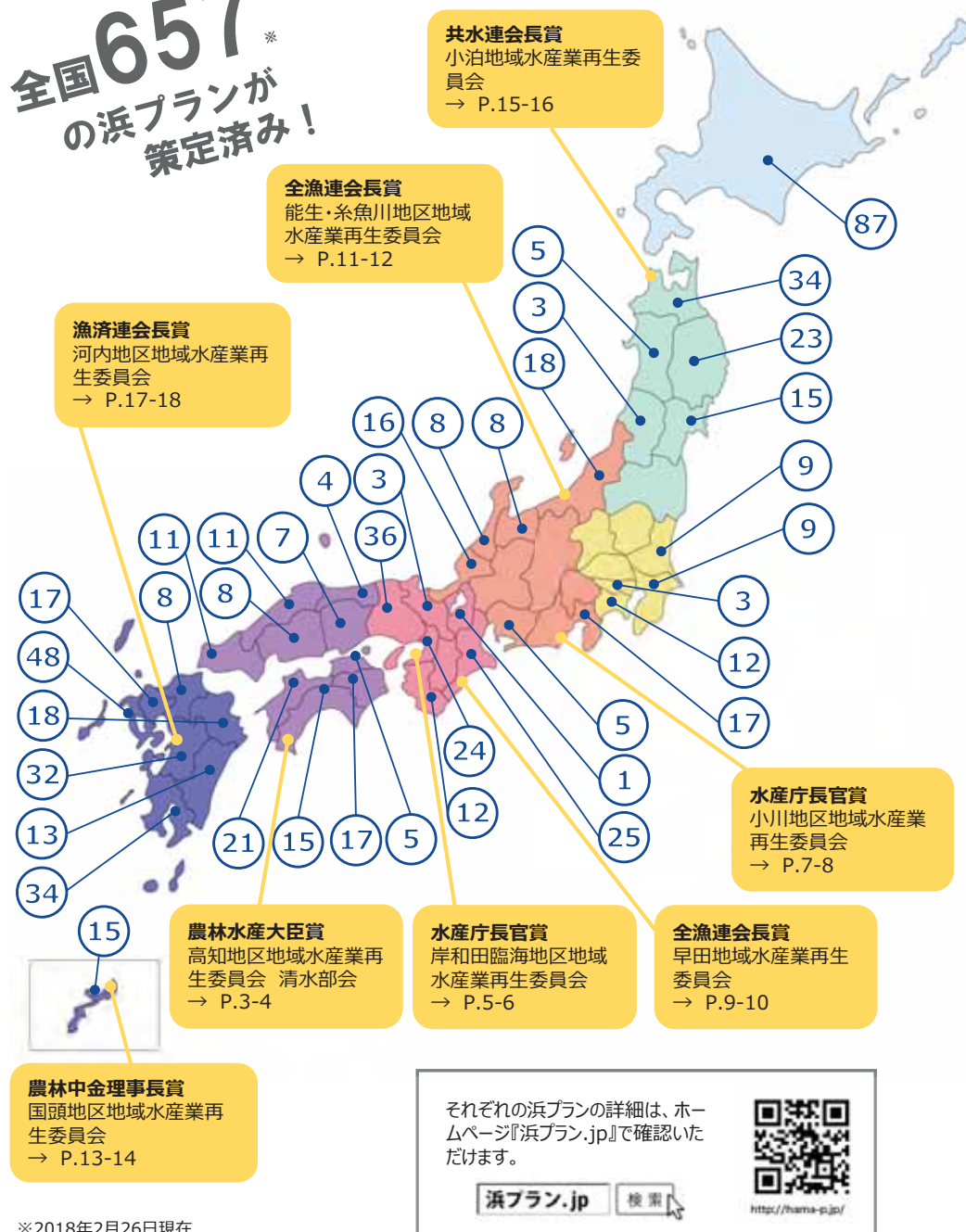
所得向上のため、5年間の計画を策定・実践

- ◎主体  
地域水産業再生委員会 (市町村、漁協等)
- ◎目標  
漁業所得を10%以上向上
- ◎取組  
  - ＜収入向上の取組＞  
高鮮度出荷・加工品開発、直販・輸出など
  - ＜コスト削減の取組＞  
省エネ機器の導入・協業化・船底清掃など

# 浜プランの策定状況と受賞者の分布

各都道府県ごとの策定済み浜プラン件数

全国657\*の浜プランが策定済み!



# 2017年度 浜の活力再生プラン 優良事例表彰

「浜の活力再生プラン 優良事例表彰」は、浜プランの推進において、地域が一体となって漁業収入の向上やコスト削減の取組を行い、漁業所得の向上や漁村地域の活性化に関して、他の範となる顕著な実績をあげた地域水産業再生委員会を表彰するものです。

## 2017年度 浜の活力再生プラン 優良事例表彰 受賞者一覧

賞	表彰基準	受賞再生委員会
農林水産大臣賞 (1点)	審査基準に基づき総合的に優れた取組を行っている再生委員会	高知地区地域水産業再生委員会 清水部会 (高知県)
水産庁長官賞 (2点)	農林水産大臣賞に準じる総合的に優れた取組を行っている再生委員会	岸和田臨海地区地域水産業再生委員会 (大阪府) 小川地区地域水産業再生委員会 (静岡県)
全国漁業協同組合連合会会長賞 (2点)	水産庁各賞に準じる総合的に優れた取組を行っている再生委員会	早田地域水産業再生委員会 (三重県) 能生・糸魚川地区地域水産業再生委員会 (新潟県)
農林中央金庫理事長賞 (1点)	とりわけ水産加工業、流通業など、地域の周辺産業に貢献する取組を行っている再生委員会	国頭地区地域水産業再生委員会 (沖縄県)
全国共済水産業協同組合連合会会長賞 (1点)	とりわけ若手漁業者、高齢漁業者、女性の参加など漁全体の再生・底上げに繋がる取組を行っている再生委員会	小泊地域水産業再生委員会 (青森県)
全国漁業共済組合連合会会長賞 (1点)	とりわけ安定的な収益が確保され、漁業所得の向上に寄与する取組を行っている再生委員会	河内地区地域水産業再生委員会 (熊本県)

※2018年2月26日現在

それぞれの浜プランの詳細は、ホームページ『浜プラン.jp』で確認いただけます。

浜プラン.jp 検索



http://hama-p.jp/

農林水産  
大臣賞

全ての漁法で改善を

# 『土佐の清水さば』支所の 浜全体の活性化策！



## 高知地区 地域水産業再生委員会 清水部会 (JF高知県 清水統括支所)

### ブランド魚『土佐の清水さば』を さらなる高みへ

漁業者の減少に頭を悩ませていた、高知県漁業協同組合 清水統括支所。この地を代表するブランド魚であるゴマサバ『土佐の清水さば』は、味に悪影響を与えるストレスを可能な限り除去するための工夫が施されている。立縄漁で一匹一匹丁寧に釣り上げられ、一切手で触れられることはない。水揚げ後は活魚槽で丸一日蓄養し、獲れたての状態を甦らせる。

知名度も高く、その鮮度と味は確かだったが、さらにブランド力と認知、魚

価を向上させるための取組みが求められていた。

### 首都圏出荷や漁師OBの活用 など、総合的な取組み

『土佐の清水さば』をより広めるために目指されたのが、都市圏への進出だった。だが、それまでの通常出荷では、水揚げの翌日に活き締め・血抜きを行い、首都圏に届くのは陸送でさらに1日と時間がかかり、一番の売りである鮮度と味が損なわれてしまう。そこで、日が昇る前から漁協職員がメ作業を行い、朝5:00に空輸で出荷する方法に変更。首都圏でも

表彰選定委員会でのコメント (一部抜粋)

「高鮮度処理、ブランド化、地区の助け合いとしての漁具制作を実施し、所得も伸びた事例である。」  
「OBや高齢者も含め、地域全体で参画した点で評価が高い。」  
「総合性の観点から、所得向上の実績もあり評価できる」



安心安全、高鮮度なブランド魚『土佐の清水さば』の取組み、メジカ水揚量の拡大策、漁師OBとの連携など、総合的に改善策を推進し、浜を活性化。

①②③土佐の清水さば ④活きメの様子  
⑤サバ漁の様子 ⑥船上の生簀に移す様子  
⑦水揚げされたサバを急いで活魚槽に移す様子 (通称: サバツシユ)  
⑧漁協内の活魚槽 ⑨漁師OBによる漁具作製の様子 ⑩関係者一同

同じ鮮度で『土佐の清水さば』を楽しむ体制を整えた。

また現役漁師の漁の負荷を軽減するため、漁師OBによる漁具作製委託を開始した。時間がかかる漁具の修繕・作製作業を分散することにより、出漁回数の増加につながる効果を見せはじめています。

当再生委員会の優れた点は、メインのブランド魚に留まらず、漁業全体で取組みを進めている点だ。ゴマサバに並ぶ主要魚種のメジカ曳縄漁では、これまで休市日となっていた土曜日でも開市。さらに、漁獲量の安定化を図るため、貸付金を利用し、大

漁時にメジカを買い付けて冷凍保管。漁獲が途切れたときに原魚の状態を加工業者に供給することで、需給調整を行う試みも進めている。

また、新技術の導入にも積極的に、サバ立縄漁でのファインバブル、曳縄漁でのスラリーアイスなど、鮮度向上のための努力を惜しまない。

課題のひとつであった担い手の確保についても、研修受講者に対する生活面での支援や育成支援を積極的に進めることで、ターン・Uターンでの新規就業者の増加に取組んでいる。

### 全ての漁法で改善を施し、浜全体を再生させる活動

清水統括支所が管轄する足摺(あしずり)岬周辺の海域は県内屈指の好漁場であり、それだけ多くの漁法が営まれている。当再生委員会の取組の特徴は、ほぼすべての漁法において課題を見出し、それへの効果的な改善策を打っている点だ。

取組みの多くは効果をもたらし、魚価の向上、所得向上につながっていることに加え、当地域の活性化にも大きく寄与している。

### 再生委員会 情報

●委員会名: 高知地区地域水産業再生委員会 清水部会 ●代表者: 間可 証善  
●構成メンバー: 高知県漁業協同組合 清水統括支所、土佐清水船主組合、土佐清水市、高知県土佐清水漁業指導所  
●対象地域: 高知県土佐清水市 (窪津地区を除く) ●対象漁業: 立縄漁業、曳縄漁業、メジカ引曳縄漁業、定置網漁業

浜プラン詳細



水産庁  
長官賞

全体効率化で魚価向上

浜の意識を変えた、  
入札制導入の改革！



## 岸和田臨海地区 地域水産業再生委員会 (JF大阪鯉巾着網)

### 慣習的な相対取引から脱却し、 魚価を向上させる必要

まき網や船びき漁でイカナゴやシラスを中心に水揚する大阪鯉巾着網漁業協同組合。荷揚げされる魚は、それまで相対取引によって流通されていた。一方、近隣の神戸港では同じ魚種が入札によって取引され、比べると2〜3割も値段が高い状況にあった。低位で安定していた資源量を考えると、漁獲量を増やして魚価を高めるには限界があると判断、入札制度への切替えに取組まれることになった。

また、魚価を向上させるだけでなく、

新たな販路を開拓することも収入を向上させる工夫が求められていた。

### 「荒療治」の競り導入は、魚価の向上とともに参加者が増加

薄利多売からの「荒療治」とも言われた入札制の導入は、当初、仲買からの反発や売れ残りリスクを心配する漁師からの声が多量に上がった。平成26年、説得を経て始めた競りには全68ヶ統のうち26ヶ統の参加に留まった。だが、魚価が他県に追いつく価格にまで向上。それを聞きつけた漁師たちが翌年、翌々年と集まり始め、平成28年には全ヶ統の参加

関係者からの反発を乗り越え、従来の相対取引から入札制へと転換。他県以上の魚価向上を実現し、漁業者の意識に大きな変化をもたらしている。

となった。それに伴い、新たに荷捌き場を整備し、水揚を集約。入札はこれまでの手書きではなく、電子入札で行われている。入札情報が漁をしている漁師のスマートフォンに送信され、値段が付いている魚がいる漁場が予測できるようになり、漁の効率化にも貢献している。

魚価が向上したのは取引形態の効果だけではない。次世代の活水器とも呼ばれる「デルカ」を導入し、漁獲物の鮮度向上にも努めたことも価格に反映された要因になっている。直売により収益性を向上させる工夫も進められ、平成27年にオーブ

ンした漁協直営の「泉州海鮮さんちやく家」、また、毎週日曜日に開催している「地蔵浜みなどマルシェ」は、地元客はもちろん多くの観光客でにぎわっている。さらに、関西空港から近い岸和田の立地特性を活かし、東京・福岡の飲食店へ「朝獲れシラス」を直接販売するなど、新たな販路を開拓することで所得向上にもつなげているところだ。

取引形態の変更というリスクも大きい改革を進めたことに加え、さらに収益性を向上させる多くの取組みにも果敢に挑んだ事例だ。

### 強力なリーダーシップが導いた 目に見える効果

入札制度そのものの効果もさることながら、自らが先頭に立つて必要な設備投資を進め、府下漁業者に呼び掛けを行った漁協のリーダーシップを他に倣って、当事例の成果を語ることはできないだろう。漁業所得の向上が大きな成果であることはもちろんのこと、大阪湾の漁師たちが一つになり、浜の現状を変えようという意識が高まったことが、この事例から見る最も大きな成果ではないだろうか。

- ① 生シラス丼 ② まき網漁の様子 ③ 電子入札の様子 ④ 整備された荷捌き場 ⑤ 入札風景 ⑥ 漁協直営「泉州海鮮さんちやく家」 ⑦ 地蔵浜みなどマルシェ

表彰選定委員会でのコメント（一部抜粋）

「かなりの反対もあった中で当初の計画を実行した。従来の取引構造を改革させ、漁業者やメーカーに高度な取組を促している。」

### 再生委員会 情報

- 委員会名：岸和田臨海地区地域水産業再生委員会 ●代表者：岡 修
- 構成メンバー：大阪府鯉巾着網漁業協同組合、岸和田市、大阪府
- 対象地域：岸和田市臨海地区 ●対象漁業：中型まき網漁業、船曳網漁業

浜プラン詳細



水産庁  
長官賞

# 『こがわ』を知ってもらったために 漁協を中心に進めた、 新コンセプトの商品開発！



## こがわ 小川地区 地域水産業再生委員会 (JF小川)

### 「小川」を『こがわ』と読んでもらうために

静岡県焼津といえばカツオやマグロのイメージが強いが、焼津漁港に拠点をおく小川漁業協同組合では、水揚げの7割近くがサバ類で占められている。焼津の知名度は高く、恩恵に預かる面もあるものの、主力魚種であるゴマサバの消費量を増やし、小川さばの認知を獲得することが求められていた。そして漁協職員たちの何よりの願いは、「小川」を「おがわ」ではなく、『こがわ』と正しく読んでもらうことだった。それが達成されることで、小川さばのブランドが浸透した

ことのパロメーターにもなるからだ。

### 若者をターゲットにした商品開発とイベント開催

小川漁協の浜プランは、漁協の女性職員を中心に進められた。ゴマサバの価値をより高めるために取組まれたのは、新たな商品の開発だった。当初1名の女性職員が始めたことが、次第に協力者を呼び、その他の職員、漁業者、地元加工業者などが協力して、試作を重ねられた。第1弾として開発されたのが、船上で活け締め・血抜きを施し、さっぱりした味の小川さばの特徴をいかした『さば干

漁協の女性職員を中心に取組まれたのは、若者をターゲットにした斬新なコンセプトの商品開発。活動が進むにつれ、協力者が増え、全体の意識が変わり始めた。

物』と『さば味噌漬け』だ。

しかし、これらは家庭での加熱調理が必要な商品で、購入する層が限られた。そこで、“さばパワーをまるごと手軽に”をコンセプトに開発された商品が、解凍してそのまま食べられる『さばチキン』だ。ターゲットは、魚が身体によりことを知りながらも調理面などを理由に敬遠している、健康志向の高い若年層。そのままはもちろん、家庭料理を手軽にアレンジできることも受け、マスコミや他業種からの引き合いも出てきている。

小川さばの認知度向上に向けて、販売の工夫も行われている。平成1

8年から継続開催されている、地域の一大会『小川港さば祭り』では、10,000食の焼きサバが無料で振る舞われる。

また、女性職員のアイデアで、地域内外の若者をターゲットに新たに開催されているのが、『小川さばマルシェ』だ。ゆったりとくつろげるような雰囲気の話型イベントで、水産関係だけでなく、小川地域の飲食店など様々な業種の約20店舗の出店交渉を経て開催が実現した。

これまで水産・漁業とは距離があった新たなターゲットを取り込むための工夫に富んだ事例だ。

### 女性職員を中心に、漁業関係者の意識が高まった

紆余曲折を経ながらも、こうした取組が実行できた背景には、女性職員の取組をバックアップしようという漁協内の意識が備わっていたことがある。浜プランでの取組をきっかけに、漁協内にはさらに強い連携体制とモチベーションが生まれ始めた。

商品販売が順調であることはもちろん、女性職員とそれを支える関係者の努力により、『こがわ』という名が知られるようになってきている。

①さばチキン ②焼津漁港 ③さば粕漬・さば干物・さば味噌漬け ④小川港さば祭りでの焼きサバ無料配布の様子 ⑤取組を進めた漁協職員 ⑥小川さばマルシェの様子 ⑦サバ漁の様子 ⑧小川で水揚げされるサバ

表彰選定委員会でのコメント (一部抜粋)

「取組を進める女性職員の姿を見て面倒な作業を漁業者が実践したり、一体体制ができている」  
「(総合性の点において) 各業者間のつながり、マルシェの活動など、明らかに地域の底上げになっている」

### 再生委員会 情報

- 委員会名: 小川地区地域水産業再生委員会 ●代表者: 橋ヶ谷 善生
- 構成メンバー: 小川漁業協同組合、焼津市、善生丸漁業生産組合、(株)藤丸
- 対象地域: 静岡県焼津市 ●対象漁業: さば棒受け網漁業、さばすくい網漁業、大型定置網漁業、刺網漁業 他

浜プラン詳細

